2024.4.15教務委員会

2023年度 修士２年生対象　修了時における学修成果に係る自己評価アンケート結果

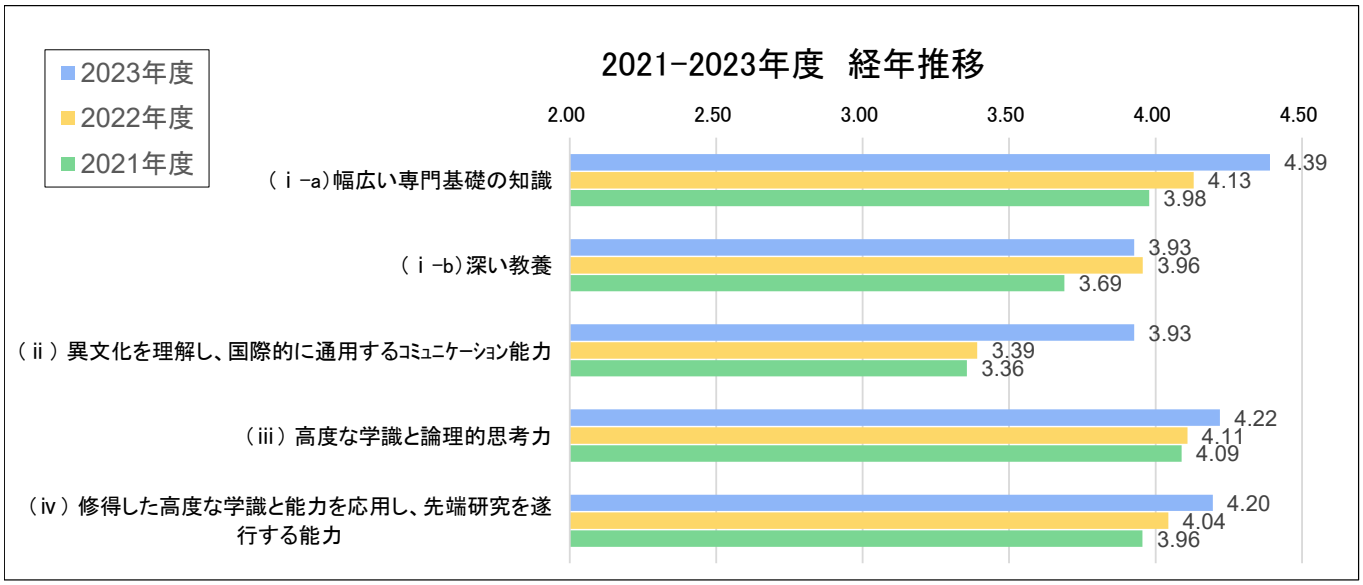
【設問】本学修士に入学後に学んだこと、経験したことを振り返り、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に掲げている能力や知識が、どの程度身についたかを回答してください。（2024年2月調査実施）

＜主な活動・出来事＞
講義科目(専門科目)、主専攻・副専攻履修、教養科目(科学・技術と人間・社会、各種講演会)、英語科目(科学技術英語・海外英語演習)、TOEICスコア、E-SUP制度、iPlaza活動、外国人研究員等との交流、定期試験、レポート作成、課外活動（同好会・天樹祭・アクティブチャレンジ等）、国際寮での生活、TA実習、教員の研究指導、学会発表、論文投稿、修士学外実習(国内・国外)、TTIC留学、研究室セミナー、修士研究、修士論文作成、研究発表会、就職活動　など

【回答集計】

2023年度　　回答率95%（回答者数41名／修了者数43名）

	身についた（5点）	まあ身についた（4点）	どちらとも言えない（3点）	あまり身につかなかった（2点）	身につかなかった（1点）	回答者数（人）	平均（5段階評価点）
（ｉ-a）幅広い専門基礎の知識	19	20	1	1	0	41	4.39
（ｉ-b）深い教養	13	15	10	3	0	41	3.93
（ii）異文化を理解し、国際的に通用するｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	18	9	7	7	0	41	3.93
（iii）高度な学識と論理的思考力	13	25	2	1	0	41	4.22
（iv）修得した高度な学識と能力を応用し、先端研究を遂行する能力	15	20	5	1	0	41	4.20



【結果考察】
・対象の学年は修士入学後はコロナの影響は受けていない（学部3年次に出校制限を受けた）。
・3年間の推移では、全体的に評価は上昇傾向にある。この間、カリキュラムの変更は行われていない。
・（ii）国際的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの項目の評価が大きく上昇している（3.39→3.93）。これは前2年の学年がコロナによる海外渡航制限があったのに対し、海外渡航者数が回復傾向にあったことが原因と考えられる。
（2022年度修了生：M1が渡航制限、2021年度修了生：M1・M2とも渡航制限）